

大分労働局における「外国人雇用状況」の届出状況【概要版】 (令和2年10月末現在)

1 外国人労働者の状況

労働者全体の状況について(P1)

- ・大分県内の外国人労働者数は7,591人。前年同期比で223人(3.0%)増加し、8年連続での増加となった。

【増加した要因】

政府が推進している高度外国人人材の受入れが進んでいること、身分に基づく在留資格の方々の就労が増えていることが考えられるが、新型コロナウイルス感染症の予防対策としての出入国制限が増加を抑制していると考えられる。

○ 国籍別の状況(P2、3)

・ベトナム	2,664人 (全体の35.1%)	[前年同期比11.1%増加]
・中国	1,219人 (同16.1%)	[同 9.5%減少]
・フィリピン	1,056人 (同13.9%)	[同 0.4%減少]
・インドネシア	628人 (同 8.3%)	[同 2.9%減少]
・ネパール	330人 (同 4.3%)	[同 21.8%増加]
・韓国	254人 (同 3.3%)	[同 14.2%減少]

特に、ベトナムは前年同期比で267人(11.1%)の増と、大幅な増加となっている。

○ 在留資格別の状況(P3、4)

・技能実習	3,978人 (全体の52.4%)	[前年同期比 4.8%増加]
・資格外活動(留学)	1,422人 (同18.7%)	[同 7.4%減少]
・身分に基づく在留資格	969人 (同12.8%)	[同 6.7%増加]
・専門的・技術的分野	903人 (同11.9%)	[同 3.3%増加]

- ・平成31年4月に創設された「特定技能」の労働者数は56人。
[前年同期比 409.1%増加]

※ ページ番号は、別添2 大分労働局における「外国人雇用状況」の届出状況まとめ【本文】(令和2年10月末現在)のページに対応している。

2 事業所の状況

事業所全体の状況について(P1)

- ・ 外国人を雇用している事業所は1,556か所。
前年同期比で187か所(13.7%)増加し、増加は8年連続となった。
- 事業所規模別の状況(P6、P8)
 - ・ 「30人未満事業所」が最も多く、事業所全体の64.8%、外国人労働者全体の40.9%を占めている。

3 産業別の状況

産業別の状況について(P5~8)

- ・ 外国人労働者、外国人労働者を雇用する事業所ともに、製造業が最も多い。
- ・ 製造業は外国人労働者を雇用する事業所全体の17.4%、外国人労働者数全体の33.6%を占める。

4 派遣・請負の状況

派遣・請負の状況について(P2)

- ・ 外国人労働者を雇用している事業所のうち、労働者派遣・請負を行っている事業所数
 - ・ 43か所(事業所全体の2.8%)
- ・ 労働者派遣請負事業を行っている事業所に就労している外国人労働者数
 - ・ 339人(外国人労働者全体の4.5%)